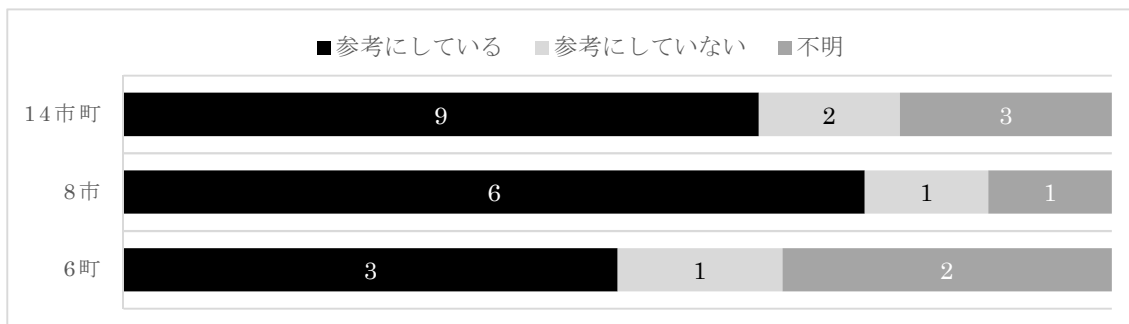


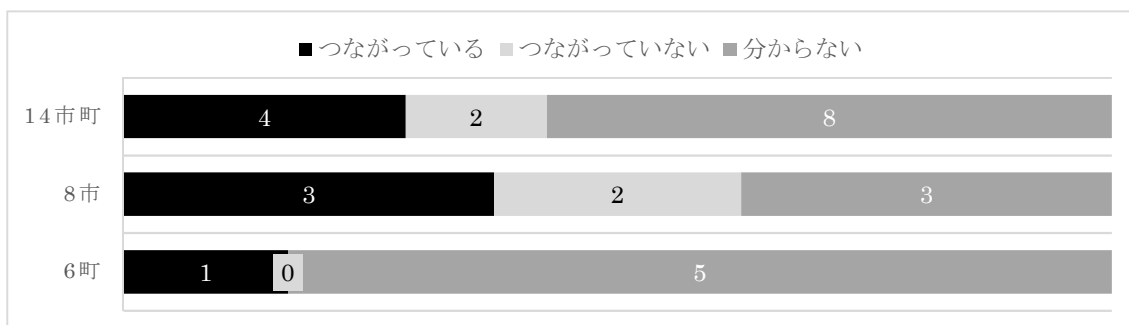
高松広域都市圏都市交通マスタープランフォローアップ委員会のアンケート結果

< 1 > アンケート結果と現状の把握

1. 高松広域都市圏都市交通マスタープラン(以下、都市交通 MP)を市町の施策や計画立案時の参考に使っているか。



2. フォローアップ委員会が市町の実施する施策の前進につながっているか。



3. 市町が PDCA サイクルを構築するうえで、今後必要となる評価指標や分析項目

交通手段分担率、各拠点の地価変動、
土讃線と予讃線の乗り換えや JR とことでの乗り換え人数

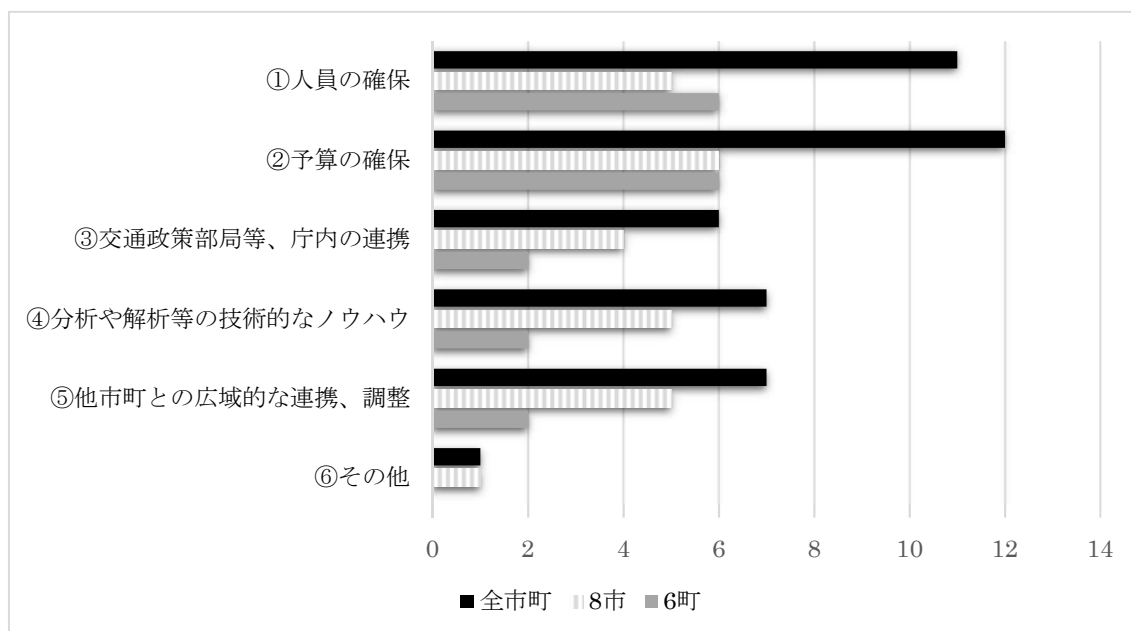
※回答は 3 市(丸亀市、善通寺市、観音寺市)であり、11 市町は「特になし」と回答

4. フォローアップ委員会で議論したい内容や知りたい情報

他市の交通政策の情報、MaaS に関する情報、
立適で定める拠点と交通施策などがうまくリンクしているか

※回答は 3 市(高松市、善通寺市、三豊市)であり、11 市町は「特になし」と回答

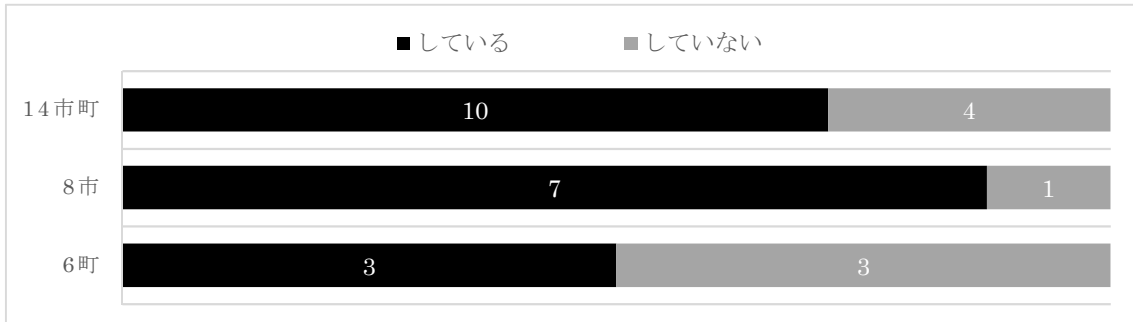
5. 都市交通 MP に記載されている施策を今後も前進させるために、市町が必要である(不足している)と感じるもの



6. 今後、交通事業者に望むこと

- ◆本市においても計画推進のための協議会等があり、その中で事業者と課題の共有等を一定図っている。広域的な交通体系については、事業者及び関係者と課題を共有していきたい。
- ◆事業者間の連携を密に行い、都市間の交通モードの一体化を目指し、持続可能な都市交通・都市機能を築いていくこと。
- ◆拠点間の公共交通ネットワークの形成について、積極的な提案をいただきたい。
- ◆IT化のよりいっそうの推進（スマートシティに関する施策との連携）
- ◆各基幹交通及び地域公共交通の相互間の連携強化（空港リムジンバスの駅前広場乗り入れ等）
- ◆交通結節点である駅前広場の充実に関する施策
- ◆観音寺市の既存3駅について、ダイヤ改正などによる利便性の向上を図りたい。
- ◆JR 便数の増加、駅前広場の整備

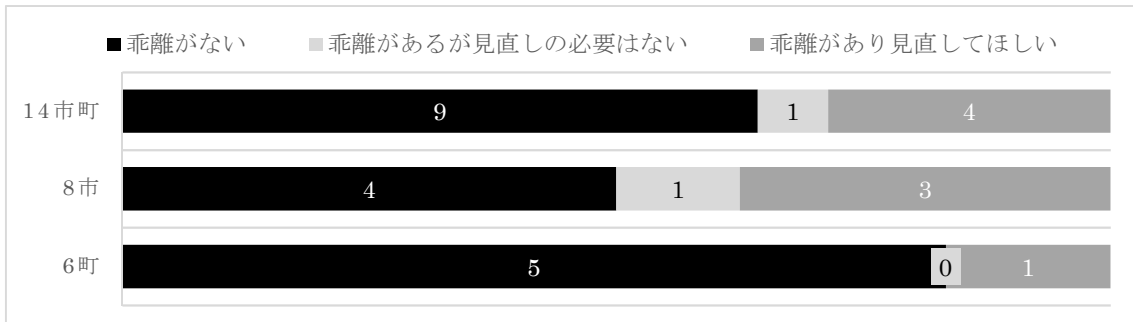
7. 集約拠点を意識した施策展開をしているか



8. 上記でしていない場合、その理由

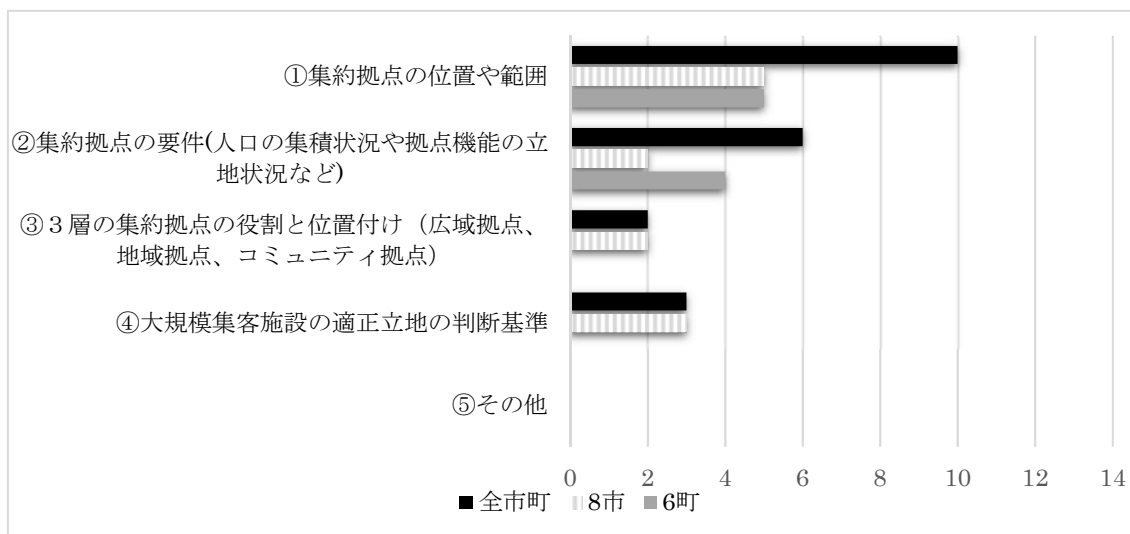
集約拠点に限定した施策にすることは合意形成が困難
 移住・定住補助金については、集約拠点に限定した施策は、合意形成が困難であるためしていないが、宅地開発事業者に対する補助金については集約拠点に限定し実施している

9. 平成19年に策定した「集約型都市構造の実現に向けたまちづくり基本方針」で示している集約拠点に関する考え方と、現在の地域の実情(拠点の要件、位置、範囲、社会資本の状況等)の乖離があるか。

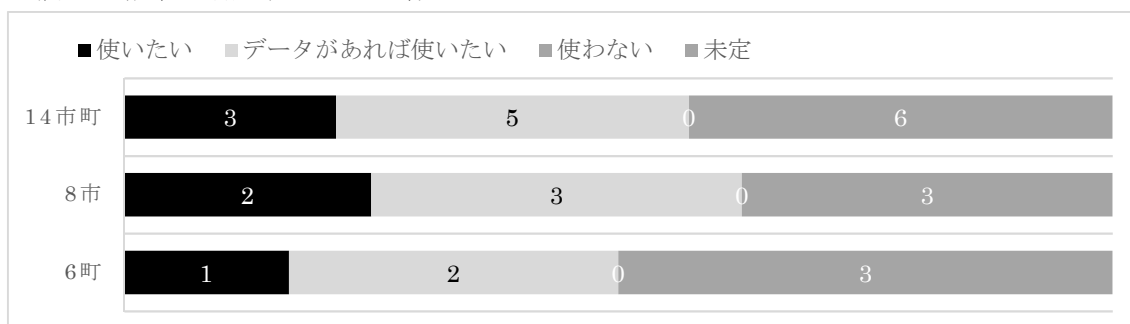


乖離があり見直してほしい : 高松市、三木町、さぬき市、三豊市
 乖離があるが見直しの必要はない : 東かがわ市

10. 今後、集約拠点の見直しが必要になった場合、見直す必要がある項目



11. H24年度に実施したPTから概ね10年が経過するが、今後、市町でパーソントリップ調査の結果を活用する予定の有無



12. その他、フォローアップ委員会の運営についての意見等

都市計画と交通計画は両軸で捉え、計画のフォローアップをしていくことが重要。特に広域交通に係る計画については、都市計画の視点も必要であることから、関連する計画については、拾い上げて一緒にフォローアップしていただきたい。(高松市)